

原田 梓 氏の学位審査結果の要旨

主査：中邨 智之

副査：小林 拓也、岩井 大

橋本病は甲状腺にリンパ球が集積して腫大する疾患であり、甲状腺ホルモン分泌能は必ずしも低下しないが、その場合でも腺細胞の機能に変化があるのかどうかは知られていない。本研究では、非常に大きな甲状腺腫をもつ橋本病患者の血中 T3/T4 比の変化と、それをもたらす原因について研究した。隈病院で採取された、非常に大きな甲状腺腫をもつ橋本病の甲状腺組織 (n=7)、およびコントロールとして甲状腺乳頭癌周囲の正常組織 (n=11) を用いた。まず、橋本病患者群では、甲状腺機能正常 (TSH 値正常) であるにもかかわらず、血中 T3/T4 比が有意に上昇していた。T4 を T3 に変換する酵素である D1 と D2 の活性を測定したところ、橋本病患者甲状腺組織において両者の活性上昇を認めた。D1 と D2 の mRNA 量に変化はなく、翻訳あるいは分解の速度が変化しているものと考えられた。橋本病患者群と甲状腺癌患者群はともに甲状腺全摘後に L-T4 補充療法により同等の血中 T3/T4 比を示したため、橋本病患者において T3/T4 比に影響した D1、D2 活性は甲状腺に由来すると結論した。本研究は、橋本病の甲状腺細胞に機能変化が起きていることを示すとともに、バセドウ病と同様、橋本病でも血中 T3/T4 比に臨床的意義がある可能性を示唆するものであり、学位に値する。